



来賓祝辞

松沢 成文（参議院議員/第3期生）

ただいまご紹介をいただきました参議院議員の松沢成文と申します。私は政経塾3期生でありますから、約30年前、この場から巣立った人間の一人であります。まずもって、今日は第35期生と、そして早期研修生を含めて、平成29年度の卒塾式が行われるということで、本当におめでとございます。また、塾関係者の皆さま、そして今日のご家族の皆さまもご参集で、こうして盛大に卒塾式が行われることを心からお慶びを申し上げます。

ただいまは来賓代表ということで紹介がりましたが、今日は来賓の皆さま、たくさんお見えでありまして、私はむしろ卒塾生、塾OB、今日、またたくさん来ておりますけれども、その代表として、私のほうから祝辞を述べさせていただきますというふうに思います。

松下幸之助塾主がこの政経塾を開いた大きな目的は、やはり社会に貢献する実践家を育てるということだと思っています。学術を究めるという人材を輩出するのであれば、日本には大学院なり研究機関がたくさんあるわけですね。なぜ政経塾を創ったか。やはり日本に政治の分野、経営の分野、社会活動の分野で実践のリーダーを作っていかなければいけないということだったと思うんです。したがって、卒塾生の皆さんは、ぜひともよき社会改革の実践者になるという心構えをまず持っていただきたいというふうに思います。

私も僭越ながら30年以上、政治の世界に身を置いちゃってますけれども、私の経験からすると、この良き実践者になるポイントがあるのではないかなというふうに思っています。

まず一つは、理念と政策手段の分別をつけられるということがポイントだと思います。松下幸之助塾主が創設された松下電器は、今年、110年を迎えます。松下電器、松下幸之助塾主の起業の理念もあつたと思いますし、それを受け継いで、さまざまな方がこの企業を大きくしたわけですが、そこには、たとえば企業というのは社会の公器である。金儲けの手段ではないんだと。社会を良くするための公の器なんだという強い理念もあつたし、また先ほど、佐野塾長からお話がありました水道哲学のように、社会を豊かにするために素晴らしい製品を送り出していくなだと、どんどん送り出していくなだというも、これ、理念だと思うんです。ただ100年の間には社会が大きく変化しますから、当然、企業の経営の手法とか、あるいは事業の内容は、常に時代に合わせて見直していかなければ、企業というのは発展できないんですね。ですから、古くなった事業は見直していく。あるいは、廃止していく。新しい企業としての事業分野を開拓していく。この守るべき理念と、そこに同時に行う政策手段。この分別がついていないと、やはりなかなか社会改革というのうまいかなんかだと思います。

たとえば、いま国会で大きな議論になっている憲法の改正がそうですね。日本国民が作ってきたいろんなかたちの憲法があります。もう聖徳太子の17条の憲法から、あるいは明治天皇の5箇条の御誓文から、さらには明治憲法から、そして今の日本国憲法まで。こういう憲法の持つ理念。日本にとって大切なものは何かということをしっかり押さえると同時に、ただ日本は時代と共に変わっていかなくちゃいけませんから、時代をリードしていかなければいけないので、古くなった条文は見直して新しい条文に変えていくという政



策手段ですね。これを分別をつけてしっかりと同時に行っていくということが大切だというふうに思っています。今の国会の憲法改正の議論は、この守るべき理念と頼るべき条文の理論がゴチャゴチャになっちゃって混乱しているんですね。ですから、ここの理念と政策手段の分別ということが大変重要だと思います。

それともう一つ、皆さんはこれから活動をしていくわけですから、実践をしていくわけですから、この実践の一つの方法として、私は二つのことを大事にしてもらいたいと思います。一つはリーダーシップの発揮。もう一つはチームワークの醸成なんですね。これは、二律背反するようになってしまいます。リーダーシップ、「俺が、俺が」って引っ張っていくと、まあ、そういう組織というのは、たぶんチームワークはないわねと。チームワークで、「みんなで話し合っただけで決めよう。みんなでとことん話し合おう」というと、話し合いばかりやっていて結論が出ない。「リーダーシップはどこにあるの？」っていうことになっちゃうんです。ですから政治でいえば独裁政治。これはリーダーシップのみですね。全部一人で決めちゃう。でも、こういう国は本当の民主主義のいい国家といえるかというとなかなか難しいですね。一方、その対極にあるのが衆愚政治です。常に議論ばかりしていて何も決まらない。何も前に進まない。私は、本当の民主主義というのは、リーダーシップとチームワークが共生できる、共存できる、この二つを併せ持って進められる組織というのが重要だと思います。

皆さんは、これから政治の世界、経営の世界、あるいは社会活動、さまざまな実践に本格的に入っていきわけですが、ぜひともリーダーシップを発揮することとチームワークを大切にすることを両立して、実践活動を展開していただければ、私はいい成果が得られるというふうに思っております。駄弁を弄しましたけれども、ぜひともこの4年間、政経塾で学んだことをしっかりとこれからの社会活動に活かしていただいて、幸之助塾主が言うように、この日本国を世界でリードできるような、そういう強くて、そして推進力のある国家社会を作っていただきたい。その先頭に立って頑張っていただきたいと心から期待をしております。また政経塾もOB会もありますので、ぜひとも参加をしていただいて、同志としてさまざまな議論をしながら、これからもお付き合いをいただきたいというふうに思います。

5名の皆さまの今後の前途を祝し、政経塾の発展をご祈念いたしまして、先輩としての祝辞と代えさせていただきます。おめでとうございます。

